



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第四二九号）

霜降 十月二十三日

白秋、齋宮の白色土器

秋の呼び名に白秋、白帝というのがあります。白帝というのは、秋を司る古代中国の神さまの名前、白秋の白はこれも古代中国の五行思想に定めた秋の色にあたるといえます。

石山の石より白し秋の風

芭蕉

江戸時代の松尾芭蕉が、おくの細道紀行で石川県小松市の那谷寺を訪ねた際、詠まれた一句です。境内にある灰白色の凝灰岩で出来た洞窟内の観音堂など越前の那谷寺の風景が、近江の石山寺に似ていたことから、無色透明の秋風を石山の石よりも白いと表現しました。白い色が仏堂に対する敬いも表しているように感じます。

白い色には、純粹、清浄、神聖あるいは無などの印象を持ちます。ウエディングドレスや神職の浄衣などはまさしく白色がひたりとはまります。

伊勢神宮に仕えた皇女、齋王は、白色の十二単衣を着用することを知りました。明和町の齋宮歴史博物館の常設展示には、白い装束の齋王と色鮮やかな十二単衣を着た女官が座っています。今回特別に展示された白い十二単衣と白地の裳を見ました。後ろに長く曳く裳には、緑色で海辺の風景が描かれています。あでやかな十二単衣とは異なり、厳かで神聖な感じが白い十二単衣からは漂いません。

そして、齋王の暮らした齋宮跡からは、釉薬を使わない白色土器も発掘されていました。白い土器器は一般的な飲食ではなく、儀礼などの饗応（酒食のもてなし）で使われたと考えられています。朱の漆器や緑釉陶器などの鮮やかな色彩の器を使う「唐風」に対して、単色の白色は「和風」指向を表すという研究者もいるようで、齋宮と白い土器器は古の人々の価値観にも通じる興味深いものです。季節は、霜が降りる頃という霜降。実際にはもう少し先ですが、ようやく白秋がひたりと納まる頃となりました。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 伊勢 陶器市

伊勢では昔から10月になると、神宮の神嘗祭を市民が祝うお祭りが行われてきました。そこでは出し物の一つとして、各地の窯元さんによる陶器市が開かれ、伊勢の人々は年に一度の機会として楽しみ、お正月準備のためお気に入りの食器などを買い求めていました。まさに秋の風物詩として親しまれてきたものです。この陶器市は、残念ながら何年も前に姿を消してしまいましたが、おかげ横丁では伊勢のよき風物詩とその趣旨を受け継ぎ、伊勢の人々や訪れる方々にお楽しみいただきたいと考えています。

日 時／10月19日(土)、20日(日)、26日(土)、27日(日) 10:00～17:30
場 所／おかげ横丁「特設屋台」

○ 伊勢おかげ嬉^う楽^た祭

「歌(うた)」の語源は一説によると「嬉(う)れし・楽(た)のし」とか。おかげ横丁では、新嘗祭を奉祝して、伊勢の伝統音楽と、縁のアーティストが奏でるミュージックの出会い・共演のお祭りを伊勢の神様に奉納いたします。嬉しい気持ちと楽しい時間を神様に、そして全ての人に紡ぐおかげ横丁初の音楽フェスタ。伊勢の深秋の風に吹かれて心に染みるひとときをお過ごしください。

日 時／11月16日(土) 16:30～20:30 (開場15:00)
場 所／おかげ横丁一帯
入場券／【前売A】5,000円 お楽しみ券(屋台・遊戯) 1,500円分 + 嬉楽祭Tシャツ + ステッカー
【前売B】3,000円 お楽しみ券(屋台・遊戯) 1,500円分 + ステッカー
【当日券】3,000円 お楽しみ券(屋台・遊戯) 1,000円分 + ステッカー
※小学生以下入場無料

お問い合わせ／おかげ横丁 総合案内「おみやげや」 電話 0596-23-8838

五十鈴塾

○ 秋の星見と活動期の太陽

秋の空は透明度が高く、星の輝きが美しく感じられます。一等星こそ少ないですが、今シーズンは土星が良いアクセントになっています。土星の環は来年3月に15年ぶりにほとんど見えなくなり、その直前の細い状態を望遠鏡で見たいと思います。また、太陽の活動はおよそ11年周期で変化し、今最盛期を迎えています。黒点が増え、フレアなどの太陽表面での爆発現象が起こり、日本でも北の空に赤いオーロラが見えたりしています。講座では、私たちの一番身近な恒星、太陽と私たちの繋がりを考えたいと思います。

日 時／11月6日(水) 18:30～20:30
場 所／五十鈴塾右王舎
講 師／野田学(名古屋市科学館学芸員・博士(理学))
参加費／ビジター 1,700円 会員 1,200円(五十鈴茶屋製の和菓子付き)

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話 0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 五十鈴茶屋節気菓子

やま にしき
山 の 錦
五十鈴川の上流に位置する神路山は、初秋の影を残しつつ錦おりなす頃となりました。三色の餡の茶巾しぼりでその美しさを喩えました。

かしこじま ゆうば
賢島の夕映え
英虞湾が黄金色に染まる夕映えの賢島。羊羹とそぼろ餡を交互に流して仕上げ、その一刻を菓子にとどめました。

はつ しも
初 霜
朝晩の空気が冷たく感じられ、伊勢路にも霜の降り始める時季がめぐってきました。小豆餡のそぼろ生地で黒糖餡を包み蒸し上げ、初霜の降りた大地を表現しました。